



屋内のようす

おおくら
大蔵村の名主を2代にわたり勤めた安藤家は、名主職になった天保5（1834）年以降、主屋を順次整備したと考えられています。復原にあたり、農業に加え養蚕、製糸など経済的に最も盛況を見せていた明治時代初期頃を想定しました。

やつま
間取りは八間取りを基本とした9部屋からなり、式台を境に、東側が役宅、西側が日常生活の場に分けられています。

ほんどこ かみざしき
役宅側には本床形式の上座敷や座敷境に板戸や格子欄間などが建て込まれており、またザシキに面して内縁を設け、内縁に面して庭を配しています。

ドマのようす



きゆうあんどうけじゆうたくおもや
旧安藤家住宅主屋
世田谷区指定有形文化財